

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

地域の現状・課題

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
<p>【観光・交流・社会基盤関連】</p> <p>人口減の危機を踏まえた人口対流の促進、散居型の特徴を踏まえた生活機能の維持などを展開する必要がある。</p>	<p>○ 道南連携地域は2市16町からなり、面積は6,568km²（全道の7.9%）です。</p> <p>人口（H27年国勢調査）は44万人（全道の8.2%）で、経年で見ると減少傾向にあり、平成22年と比べ5.8%減（全道2.3%減）となっており、地域コミュニティの維持が課題となっています。</p> <p>高齢者比率（H27年国勢調査）は32.8%（全道28.9%）で、道内では高齢者比率の高い地域となっています。</p> <p>○ 学校数（H27 学校基本調査）は、小学校（121校）、中学校（67校）、高等学校（30校）の合計で218校となっています。</p> <p>地域の高等教育機関には、公立はこだて未来大学、函館大学、函館大谷短期大学、函館短期大学、函館工業高等専門学校のほか、北海道大学水産学部、北海道教育大学函館校、東京理科大学基礎工学部があります。</p> <p>○ 観光入込客数（H27北海道観光入込客数調査）は、1,195万人（全道の8.5%）となっています。</p> <p>外国人宿泊客数（H27北海道観光入込客数調査）は、年間延べ47万8千人（全道の7.8%）となっています。</p> <p>観光消費額（H22 北海道観光産業経済効果調査）は、道外客が</p>	<p>○移住・定住</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道南の居住環境を活かした取組推進 ・子育て環境の整備 <p>○観光、文化・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業に対応した地域づくり ・東北や北関東との交流促進 ・歴史・文化等を活かした観光推進 ・スポーツ大会・合宿誘致、修学旅行の

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
	<p>635 億円（全道の13.0%）で、道内客が568 億円（全道の7.8%）となっています。</p> <p>今後は、新幹線の開業効果を最大限に高めるため、道南地域全体が連携した取組が求められています。</p> <p>○ 函館空港は、年間 177 万人(H27 空港管理状況調書)の利用客があり、平成 28 年 12 月末現在、道内 3 路線(丘珠、新千歳、奥尻)、道外 3 路線(羽田、伊丹、中部)と、国外 5 路線(ソウル(休止中)、台北、天津、西安、杭州(休止中))が就航しています。</p> <p>奥尻空港は、年間 1 万 1 千人の利用客があります。</p> <p>港湾取扱貨物量(H27 北海道港湾統計年報)は、函館港が全道港湾の取扱貨物量の 16.3%を占めています。函館港は、道南の物流拠点としての役割を果たすとともに、青森港、大間港とフェリー航路で結ばれています。</p> <p>クルーズ客船の寄港は経済波及効果や交流人口の拡大に伴う地域活力の増進に期待が寄せられており、函館港への入港実績(H28 函館市港湾空港部・速報値)は 27 隻、乗客計 3 万 4 200 人、乗員計 1 万 5 950 人となっております。</p> <p>北海道新幹線の新青森～新函館北斗間が平成 28 年 3 月 26 日に開業し、現在は、新函館北斗～札幌間(工事延長 212 km)の整備を行っています。</p> <p>○ 人口 10 万人当たりの医師数(H26 北海道保健統計年報)は 214.5 人で、全道平均 240.5 人を下回っており、二次医療圏の南檜山、北渡島檜山の地域ではさらに下回っています。</p>	<p>受入等</p> <p>○交通・情報基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活と産業を支える交通ネットワークなど基盤整備 <p>○医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道南ドクターヘリの効果的な活用 ・地方・地域センター病院の機能充実

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
<p>【食関連】</p> <p>北海道は我が国の食料供給基地であり、安定的な食料供給力の確保・向上のため、生産・社会基盤の整備を図る必要がある。</p> <p>また、北海道が持つ魅力ある観光資源を活かし、世界に通用する観光地域づくり、外国人旅行者の受入環境の改善などを図る必要がある。</p>	<p>二次医療圏別の産婦人科医師数・小児科医師数(H26 医師・歯科医師・薬剤師調査)は、南檜山・北渡島檜山で少なく、医師の地域偏在とともに、産科などの特定診療科の医師不足が課題となっています。</p> <p>全道には、災害拠点病院が33施設(基幹1、地域32)あり、地域では市立函館病院、道立江差病院、八雲総合病院の3施設が地域災害拠点病院として指定されています。(H27災害拠点病院一覧)</p> <p>○ 農家戸数(H27 農林業センサス)は4,149戸(全道の9.3%)で、平成22年と比べると、15.6%減(全道13.2%減)となっています。</p> <p>耕地面積(H27作物統計調査)は、4万3千ha(全道の3.8%)となっています。</p> <p>主要農作物(水稻、小麦、大豆、てん菜)合計での作付面積と収穫量(H27作物統計調査)は1万1千ha(全道の3.3%)と6万5千t(全道の1.2%)となっています。</p> <p>「北海道農業の縮図」といわれる多様な農業が展開されていますが、小規模経営農家が多く、担い手の減少や高齢化が進んでいます。</p> <p>○ 森林面積(H26 北海道林業統計)は53万ha(全道の9.6%)で地域総面積の約8割を占め、トドマツ、スギ、ブナ、ナラなどを中心に製材、チップ等が生産されていますが、木材需要及び外国材の流入等による木材価格の低迷から、林業経営は厳しい</p>	<p>・医療従事者の確保・定着</p> <p>○農林水産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の収益性向上、効率化・高度化 ・水産増養殖の取組推進 ・公共建築物への地域材の活用 ・農林水産物の付加価値向上やブランド化 ・農林水産業の担い手の育成確保

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
	<p>状況にあります。</p> <p>○ 漁業就業者数（H22国勢調査）は8千5百人（全道の24.9%）で、平成17年と比べると、16.4%減（全道 11.4%減）となっています。</p> <p>漁業就業者一人あたりの生産高は平成22年で523万円と、全道平均（738万円）に比べ低い水準にあります。</p> <p>漁業生産高（H27北海道水産現勢）は592億円（全道の19.0%）となっています。</p> <p>生産高（金額）の魚種構成を見ると、コンブ（13.9%）、ホタテ（49.5%）、スルメイカ（8.4%）の三種で生産高の約7割を占めています。</p> <p>コンブ、ウニ、ホタテ、アワビ、ナマコ、ヒラメ、ニシンなどのつくり育てる漁業の取組を推進していますが、経営の安定化や漁業の担い手の減少、就業者の高齢化などが課題となっています。</p> <p>○ 産業は、稲作、畑作、野菜、酪農、畜産などの農業、ホタテ、コンブ、イカ、スケトウダラなどの漁業、トドマツ、スギなどを主体とした林業・木材産業、水産加工業や電子部品製造業、造船業などの製造業、歴史、文化、自然などを生かした観光産業等が展開されています。</p> <p>○ 従業者数の構成比（H26 工業統計調査）で見ると、食料品製造等（食品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業の計）が工業全体の</p>	<p>○産業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、研究機関が集積している特性を活かした産官学金連携による商品・技術開発 ・ 食品産業などの企業誘致

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
<p>【暮らし関連】</p> <p>国民の命と暮らしを守るため、防災・減災や老朽化対策、地域支援等による国土強靱化を推進し、安全・安心に暮らせる社会基盤の確立を図る必要がある。</p>	<p>66.1%を占めています。</p> <p>製造品出荷額等(H26 工業統計調査)は 3,682 億円(全道の5.5%)となっています。</p> <p>製造業従業者一人あたりの付加価値額(H26 工業統計調査)は 651 万円であり、全道平均(869 万円)と比べて低い水準にあります。</p> <p>函館周辺地域では、(公財)函館地域産業振興財団を中核機関とした「函館マリンバイオクラスター」の実施など関係機関等が連携した新産業創出等への取組が行われており、これら成果を活用した地域産業の活性化が期待されています。</p> <p>○ 小売業商品販売額(H26 商業統計調査)は、4,439 億円(全道の6.4%)となっています。</p> <p>既存の小規模小売店は、顧客の郊外型大型店への流出などにより売上高が減少しており、中心市街地の空洞化が課題となっています。</p> <p>○ 北海道縦貫自動車道は、士別剣淵 I C から大沼公園 I C までが供用済です。</p> <p>道路は、そのほとんどが急峻な海岸線沿いや山間部に通じており、高波や土砂崩れなど自然災害による影響を受けやすいことから、都市部との移動時間の短縮のほか、代替ルートの確保や防災対策が課題となっています。</p>	<p>○防災</p> <p>・地域防災力の向上や防災体制の充実・強化</p>

国家的・広域的な課題	連携地域の現状	連携地域の取組・課題
	<p>○ 地域には大沼国定公園、檜山道立自然公園、松前矢越道立自然公園、恵山道立自然公園、狩場茂津多道立自然公園があります。</p> <p>○ 地域内の主要発電所としては、知内発電所(火力発電所、石油、出力 70 万 kW)があり、地熱発電を行う森発電所(地熱発電所、出力 2 万 5 千 kW)もあります。</p> <p>江差風力発電所(出力 2 万 1 千 kW)など日本海側を中心に風力エネルギーの活用が進められています。</p> <p>○ 一人一日あたりのごみ排出量とリサイクル率(H26 一般廃棄物処理実態調査)は、1,059g/人日(全道平均 990g/人日)と 17.6%(全道平均 24.6%)となっています。</p>	<p>○環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大沼などの環境保全の普及啓発 <p>○エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風力発電など新エネルギーの普及と活用